

# 西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.41 2009年1月号

この「毎日楽しく」では「言葉」の重要性について何度か書いていますが、これに関して教育者であり哲学者として有名な森信三先生がおもしろい話をされています。『「暑い」「寒い」という言葉を、徹底的に言わなくなったとしたら、もうそれだけでも、(中略)まず一流の人物と言えましょう。』これはどういうことでしょうか？

森先生によれば、当初はやせ我慢で「暑い」「寒い」という言葉を言わないでいたとしても、これを貫いていくことでやがて本当に「暑い」「寒い」と思わなくなる境地に達するといいます。精神的な忍耐力というものは肉体的な忍耐力を足場として初めて身につくものであるから、肉体的な寒暑に打ち克つことでやがては人生における困難にもへこたれなくなるということのようです。ですから、「暑い」「寒い」を言わないというのは一例であって、逆境にあっても「つらい」と言わない(思わない)、逆に順境にあっても過度にうかれぬ、平常心の大切さを説いています。

そしてこの平常心を持つことは、普通のすごし方でも重要になるようです。たとえば教室でりっぱな教師と言われる人は、廊下や学校への往復の道、自宅でもりっぱな教師でないとダメだといいます。つまり、りっぱな人は24時間りっぱでないといけないということです。ですから、ふだんは温厚で他人にもやさしく接している人が、車の運転をしたとたん、人が変わったように荒っぽくなるというのは、もちろんダメです(私のことではありません<笑>)。

ただ、実際に、24時間「りっぱな人」でいるというのは容易なことではありませんし、「暑い」「寒い」ということを言わないと決めた場合でも、一番困るのが、出会った人から「今日は寒いですね」などと言われたときです。こんなとき、みなさんならどうしますか？ 私なら思わず「本当に寒いですね」と言ってしまうそうですが、森先生は、「なかなかきびしいですね」などと返せばいいとおっしゃっています。人とおつきあいを大切にしつつ、一流の人物を目指す道はなかなかきびしいそうです。

